

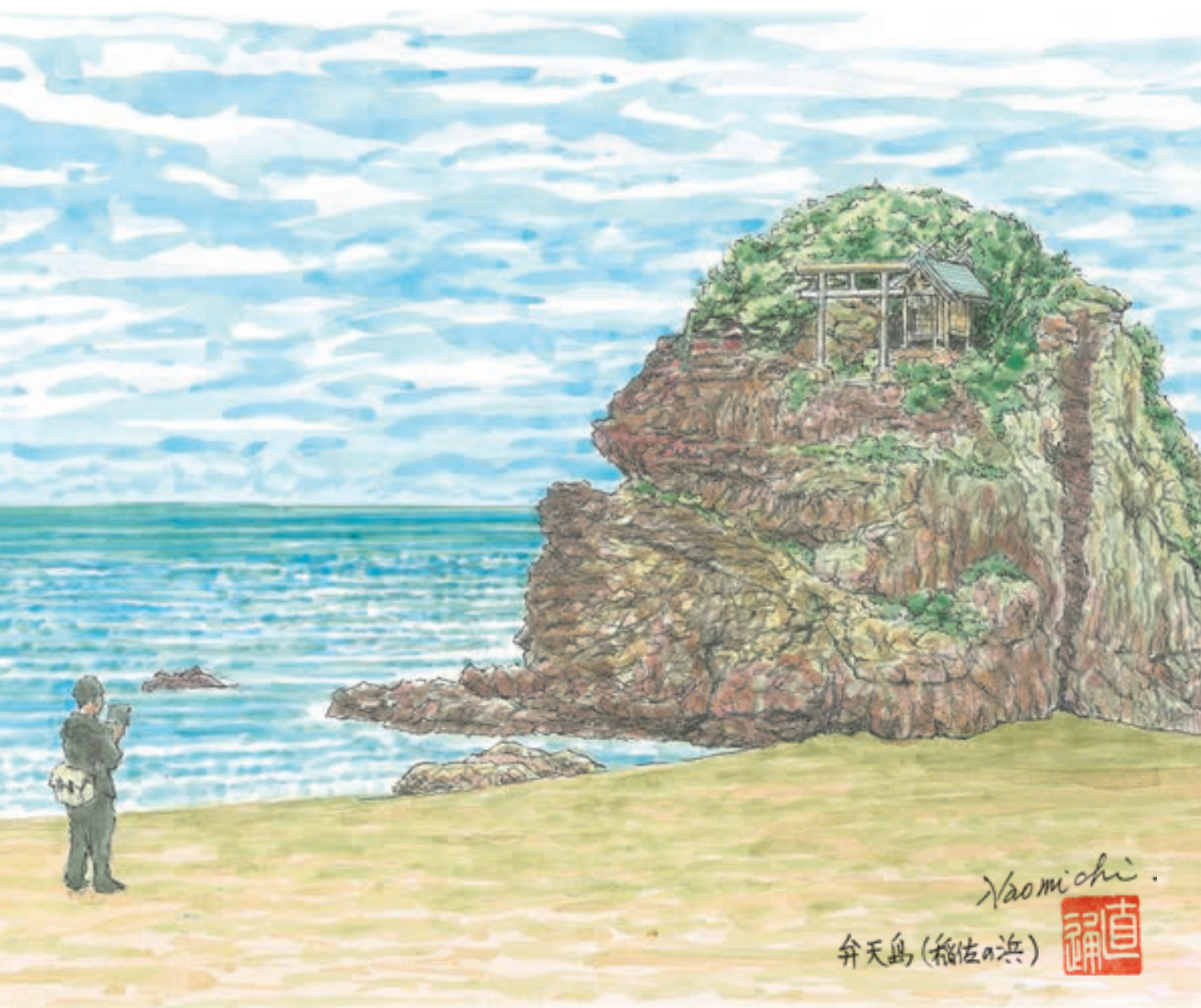
JAしまねびより

2018

7

July Vol.28

特集 JALまね 第4回通常総代会開催



Naomichi.

弁天島(稲佐の浜)



通常総代会特集



議長団（石原総代（左）、村上総代）



当日は最終集計で、総代定数1,000人（欠員8人）に対し、959人（本人出席547人、委任状8人、書面出席404人）の出席。議長団に、石原吉徳氏（雲南地区本部）、村上義成氏（隠岐地区本部）の両氏を選出し、各地区本部総代から意見、要望が出される中、前年度事業報告、新年度事業計画など全議案が可決承認されました。

竹下組合長が「政府が示す農協改革集中推進期間の期限が31年5月に控えており、JA組織は重要な局面を迎えている。JAしまねは引き続き、事業改革や運営体制改革を含めて、自己改革を加速化し、将来に渡って農家組合員をはじめ地域住民の皆様から、信頼され、必要とされ、利用していただけるJAとなるよう、誠心誠意努力する」とあいさつ。来賓の溝口善兵衛島根県知事から、「JAしまねは、担い手との度重なる話し合いや、1JAの強みである資材の共同購入による価格の低減に努めるなど、農業生産の拡大と農業所得の増大に向けて、自己改革に積極的に取り組んでいる。県としても農業者の皆様が、今後も安定した営農を続けられるよう、JAしまねと連携していく」との言葉をいただきました。

また、組合員の代表としてJAの発展に貢献され、昨年ご退任された総代の皆様方のなかから、長きにわたりご尽力いただいた方々の功労者表彰を行いました。

本総代会にて付議した議案は次のとおりです。

- 第1号議案 平成29年度事業報告及び剰余金処分案について
- 第2号議案 平成30年度事業計画の設定について
- 第3号議案 運営体制改革の取り組みについて
- 第4号議案 定款の一部変更について（特別決議案）
- 第5号議案 監事監査規程の全部改正について
- 第6号議案 信用事業規程の一部変更について
- 第7号議案 株式会社JAアグリ島根への出資について
- 第8号議案 一般社団法人JAバンク相談所への加入について
- 第9号議案 「一般社団法人ファームサポート美郷」の設立への参画について
- 第10号議案 子会社の設立及び出資について
- 第11号議案 平成30年度指導事業に要する経費の賦課及び徴収の方法の決定について
- 第12号議案 退任理事に対する退職慰労金の支給について
- 第13号議案 平成30年度における理事の報酬額の決定について
- 第14号議案 平成30年度における監事の報酬額の決定について

平成29年度 事業報告

平成29年度は、安倍内閣の進めるアベノミクスにより、雇用・所得環境の緩やかな改善の動きは見えつつあるものの、国内総生産（GDP）の6割を占める個人消費は依然弱く、デフレ脱却は実現しないまま、景気回復には不透明な面が見られました。

また、海外では北朝鮮による核実験やミサイル発射、シリア内戦にかかわる各国の動向、米国防務省の対外政策による混乱など、国際的な政治・経済の先行きも不透明感が高まっています。

TPP（環太平洋経済連携協定）については、米国防務省（環太平洋経済連携協定）については、米国防務省を除く11カ国で協定を発効させることで大筋合意し、本年3月にTPP11協定が署名されました。また、EPA（日EU経済連携協定）については、農畜産物では約82%の品目で関税を撤廃することを合意内容として、平成29年12月に交渉が妥結しました。今後、米国防務省との二国間交渉の動向も注視し、引き続き日本の「食」と「農」の重要性をアピールする運動を展開していく必要があります。

組織情勢では、農林水産省が平成28年度から平成29年度にかけて総合JAと認定農業者に対してアンケートを行いました。総合JAに対しては自己改革の取り組み状況について、認定農業者等に対してはJAの自己改革の取り組みをどのように評価しているのかについて調査した結果、自己改革の取り組みに対する認識について、JAと認定農業者の間で乖離があることが浮き彫りとなりました。今後は、引き続き自己改革の取り組みを着実に実践することはもちろん、広報活動

にも重点を置き、自己改革の取り組みを広くPRすることで組合員やJAグループ外部からの評価を高めていくことが不可欠となっています。

こうした状況の中、平成29年度は「農業戦略実践3カ年営農計画」2年目として、営農指導と経営指導を通じて、組合員・生産者の所得向上に向けた取り組みを実施しました。

取り組みの結果、販売品販売・取扱高が38,129百万円、購買品供給高が34,014百万円、貯金残高が984,693百万円、貸出金残高が299,671百万円、長期共済保有高が3,541,460百万円となりました。また、財務状況の安全性を示す指標である自己資本比率は14.93%となりました。

収支面については、事業利益が1,016百万円、経常利益は2,189百万円となり、当期剰余金は609百万円となりました。

主な事業活動と成果の詳細については次ページののとおりです。

■貯金残高	984,693百万円
■貸出金残高	299,671百万円
■長期共済保有高	3,541,460百万円
自己資本比率	14.93%
■事業利益	1,016百万円
■経常利益	2,189百万円
■当期剰余金	609百万円

PickUP

第3号議案 「運営体制改革の取り組みについて」

目的
業務内容が高度化・専門化している事業環境下、JAの基本方針の審議決定と組合員の意思反映機能を担う非常勤理事と、事業の企画立案と迅速な業務執行機能を担う常勤理事、それぞれの責務の明確化と一層の役割発揮に向け、理事会の運営方法を含めた運営体制の改革に取り組みます。

主な内容

- ① 現行33名の常勤理事体制を、「半減」を目安に見直します。
- ② 現行32名の非常勤理事体制を、必要最小限に見直します。
- ③ 地区本部運営委員会の役割・位置づけを再検討し、構成員や運営方法などを統一的に再構築します。
- ④ 監事定数を必要最小限に見直します。
- ⑤ 運営体制については、これまでの検討経過を踏まえ、今回の改革以降も継続的に検証・検討を行い、将来的な経営管理委員会制度の導入に向けて、今回の改革以降も継続して協議を行います。

本議案の今後のスケジュール

時期	実施事項等	実施内容等
平成30年		
6月	○第4回通常総代会	○運営体制改革への取り組み承認
7月		↑ ↓ 具体的内容の策定・調整等 ・総代等との会議、意見集約 ・役員による改革案の検討・策定
8月		
9月		
10月(中～下旬)	○地区別総代説明会	○改革案の説明等
11月上旬	○臨時総代会	○運営体制改革の内容決議 (※定款変更を含む)
平成31年		
6月	○第5回通常総代会	○役員改選 ○新体制スタート

組合員の状況

(1) 組合員数

(単位：組合員数)

資格区分		当期首	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	64,865	2,677	2,473	65,069	
	法人	農事組合法人	196	14	1	209
		その他法人	203	17	3	217
	計	65,264	2,708	2,477	65,495	
准組合員	個人	165,484	3,578	4,780	164,282	
	農業協同組合	0	0	0	0	
	農事組合法人	24	0	3	21	
	その他の団体	1,889	17	38	1,868	
	計	167,397	3,595	4,821	166,171	
合計		232,661	6,303	7,298	231,666	

(2) 出資口数

(単位：口)

資格区分		当期首	当期増加	当期減少	当期末	
正組合員	個人	16,875,056	463,101	619,158	16,718,999	
	法人	農事組合法人	25,728	339	532	25,535
		その他法人	33,335	1,378	515	34,198
	計	16,934,119	464,818	620,205	16,778,732	
准組合員	個人	5,638,717	349,921	301,273	5,687,365	
	農業協同組合	0	0	0	0	
	農事組合法人	1,716	11	214	1,513	
	その他の団体	95,199	893	1,498	94,594	
	計	5,735,632	350,825	302,985	5,783,472	
処分未済持分		128,177	119,775	128,177	119,775	
合計		22,797,928	935,418	1,051,367	22,681,979	

適要：(1)出資一口金額

1,000円

(2)当期末払込済出資総額 22,681,979,000円

財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	平成28年度	平成29年度	
財務	事業利益	1,050	1,016	
	経常利益	2,014	2,189	
	当期剰余金	1,295	609	
	総資産	1,104,465	1,092,634	
	純資産	77,982	77,986	
信用事業	貯金	994,007	984,693	
	預金	498,551	499,645	
	貸出金	308,072	299,671	
	有価証券	国債	82,394	80,375
		その他	88,894	87,015
	共済事業	長期共済保有高	3,659,406	3,541,460
	短期共済新契約掛金	10,267	10,184	
購買事業	購買品供給高	34,092	34,014	
販売事業	販売品販売・取扱高	38,259	38,129	

(注1) 貯金は譲渡性貯金を含む。

(注2) 販売品販売高・取扱高は受託販売品と買取販売品の合計。

第4事業年度 剰余金処分

(単位：円)

1. 当期末処分剰余金	2,026,372,121
2. 剰余金処分額	1,346,744,329
(1)利益準備金	122,000,000
(2)任意積立金	1,000,000,000
農業振興積立金	100,000,000
農業災害積立金	100,000,000
教育研修充実積立金	100,000,000
信用事業システム開発積立金	200,000,000
BIS規制強化対応積立金	200,000,000
経営安定化積立金	150,000,000
施設等更新積立金	150,000,000
(3)出資配当金	224,744,329
3. 次期繰越剰余金	679,627,792

(注1) 出資配当金は年1.0%の割合です。

(注2) 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額30,488千円と、地区本部業績還元のために繰越額200,000千円が含まれています。

平成29年度 主な事業活動と成果

販売事業

米穀は平成29年産の島根県における水稲の作況指数が102（前年104）となり、主食用予想収穫量は89,300トンで前年比2,000トンの減となりました。また、28年産米から導入した米の買取制度を29年産米も継続実施し、集荷数量は平成30年3月末現在で36,594トンとなり、出荷契約に対する集荷進度は92.4%、前年対比では97.9%となりました。

園芸

取引先をはじめ関係機関が一体となって取り組んだ結果、デラウェアは過去最高の単価となりました。また、平成28年度に整備した西条柿の冷蔵施設を拠点に、地区本部の枠を超えてあんぽ柿原料



を受け入れ、JAしまねの統一規格である「島根あんぽ」を中心に生産・販売拡大を行い生産者所得の向上に努めました。

畜産

和牛繁殖雌牛の増頭支援対策や繁殖農家の経営支援を目的とした県央地区畜産総合センター施設の整備による新たな預かり事業の開始、行政の支



援により隠岐地区の家畜市場整備を進めました。また、肉牛の消費宣伝対策として新たなしまね和牛宣伝用ポスターの作成と枝肉の脂肪酸組成・食味分析を実施し、酪農家の経営支援を目的に酪農ヘルパー事業を開始しました。

資材

肥料・農薬・飼料について、水稲肥料・農薬の銘柄統一や値下げを進め、低価

格での資材供給を行い、「農業者の所得増大」の実現に向けた取り組みに努めました。

信用

農業所得増大応援キャンペーンなどにより、農業者の設備投資等を支援するとともに、子育て応援宣言によるローン金利優遇サービスや島根の農畜産物をPRする貯金キャンペーンを実施し、地域のくらしと農業を支援しました。



共済

共済事務センターの設置により事務処理の効率化、迅速化を図り、利用者満足度の維持・向上に努めるとともに、子育てフェスや子ども倶楽部等を通じた次世代対策を展開し、地域への「安心」「満足」の提供と信頼の獲得に取り組みました。

くらしの活動

安心して暮らせる豊かな地域社会の実現を目指し、女性部や青年組織と連携した食と農を基軸とした活動、家の光の購読拡大運動をはじめとした教育文化活動、JA女子大学の開催や児童を対象とした食農教育などを通じた「生きがい、ふれあいの場づくり」、健康に対する意識向上と体力づくりの促進などに積極的に取り組みました。



平成30年度 事業方針

農業振興

◆方針

平成30年度は「農業戦略実践3カ年 営農計画」の最終年度となる節目の年であり、組合員とともに「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現につながる目標の達成に向けて取り組みます。

農政改革により平成30年産米から主食用米の生産調整は、農業再生協議会を中心とした体制で生産数量の目安提示を行うこととなり、JAとして複数年契約等の事前販売契約に基づいた主食用米の品種誘導や1・9mmふるい目への全面切り替え、粒厚肥大技術の普及により、島根米の品質向上・評価向上に努め、販売力の強化による生産者所得の向上を実現します。

生産調整による主食用米以外での水田利活用品目の普及が重要であることから、飼料用米の県内需給調整による安定取引の実現や園芸重点推進5品目への転換、集落放牧による和牛繁殖の拡大により農地の利活用促進をすすめます。

また、地域農業の担い手である認定農業者、集落営農、農業法人の運営、経営安定に向けた記帳代行やデータ提供による利便性向上と経営診断により経営の安定化対策や業務受託対策をすすめ、担い手とJAが一体となって地域農業の振興をすすめます。

◆重点事項

- ①「農業戦略実践3カ年営農計画」の実現
- ②平成30年産米以降の需要に応じた生産に向けた対応
- ③営農指導体制整備
- ④担い手支援
- ⑤農業経営管理支援
- ⑥労災保険加入支援
- ⑦JAしまね農業振興支援事業

全般

◆くらしの活動

くらしの活動では、「豊かでくらしやすい地域社会の実現」を目指して、女性部、青年組織をはじめ、組合員や地域住民の参加によるくらしの活動に取り組みます。取り組みに際しては、組合員アンケートの調査結果等を踏まえ、組合員の多様なニーズを把握するとともに、アクティブ・メンバーシップ（組合員が積極的にJAの事業や活動に参加すること）の確立を目指して、活動への参加機会の提供とともに、活動の質と参加者満足度の向上に努めます。

◆販売事業

しまねブランド商品として市場や卸に頼らない県産農畜産物の販売の強化

に取り組むとともに、生産基盤の維持・拡大を図るため、「農業戦略実践3カ年営農計画」に掲げた「販売を起点としたものづくり」の実現に向け、行動計画を策定し進捗管理を行うことにより、生産現場での営農指導と販売を連携させた実践策を講じます。

◆購買事業

農家組合員の営農を支え地域農業の振興に資するため、営農指導部門・販売部門・TACと一体となって効率的な購買事業を進め、農家組合員の生産コスト低減と組合員サービスの充実・強化に努めます。

また、組合員・地域住民の暮らしを支援し、時代の変化・多様なニーズに対応した商品の提供が行えるよう、生活購買事業・店舗購買事業・自動車燃費事業を積極的に取り組み、地域の活性化にも貢献するとともに、より一層のサービスの充実に努めます。

◆信用事業

「利用者満足度向上から事業利用拡大への循環をつくり、島根の豊かな農業と活気ある地域を守るJAバンク」の実現のため、JAバンク自己改革「3本の柱」の完遂を目指します。

低経済成長やマイナナス金利継続に伴いJAを含む地域金融機関の運用環境が厳しさを増すなか、コスト削減を図りながら、農業所得増大と地域活性化

に積極的に取り組みます。

また、JAとして営農経済事業に全力投球できるよう、信用事業運営の効率化をすすめるとともに、地域に貢献する金融サービスを積極的に展開します。

- 「JAバンク自己改革」3本の柱」
- ①農業所得増大と地域活性化に資する踏み込んだ対応
 - ②信用事業運営の効率化
 - ③農業と地域・利用者をつなぐ金融サービスの提供

◆共済事業

地域実態・ニーズをふまえたJA事業とJAくらしの活動の展開を図るため、共済事業では、組合員・利用者への「安心」「満足」の提供と信頼を獲得するため、事業実施体制のさらなる高度化及び平準化に取り組み、組合員・利用者はもとより、新規利用者拡大に向けた積極的な取り組みと、地域農業・地域社会への貢献を目的とした事業活動を展開します。

また、共済事務センターの機能発揮による事務の更なる統一化及び効率化を進めるとともに、支店担当者のスキルアップにより組合員・利用者サービスの向上に取り組みます。さらに自動車損害調査体制の再構築により組合員・利用者の満足度向上を図ります。

また「JAしまね共済事務センター」設置による事務の合理化及び効率化、自動車事故相談体制の充実強化を図り、「最良品質のサービス」提供を目指します。

功 労 者 表 彰

組合員の代表としてJAの発展に貢献された総代の皆様方のなかから、長きにわたりご尽力いただいた方々に、感謝と功績を讃え功労者表彰を行いました。

当日は各地区本部の代表者へ表彰を行いました。そのほかの、地区本部管内で受賞された皆様については、別ページをご覧ください。



各地区本部を代表して表彰を受けられた方々
(左から竹田重一氏、安部敏樹氏、岡田一夫氏、朝日照男氏、佐々木菊雄氏、向山剛之氏、杉原定氏、石橋敏一氏、日高勝明氏、藤若早男氏、永井安行氏)



功労者を代表して
あいさつする竹田重一氏

西	い	島	石	斐	出	隠	隠	雲	や	く	(地区本部名)
い	わ	根	見			岐			す	に	
わ	み	お	お	銀	川	ど				び	
み	中	お	山	川	雲	う	岐	南	ぎ	き	
	央	ち				ぜん					(表彰者名)
永	藤	日	石	杉	竹	向	佐	朝	岡	安	
井	若	高	橋	原	田	山	々	日	田	部	
安	早	勝	敏	重	剛	菊	照	一	敏		
	行	男	明	一	定	一	之	雄	男	夫	樹

第4回総代会 Q&A

質 問

担い手対策として、農業の魅力を発信したり、Uターン・Iターンを促進するなどのPR活動を、JAが率先して行う考えはないか。

回 答

新規就農に対しては、行政等と連携してPRを含めた取り組みを行い、毎年150人程度の就農に繋がっています。また、新規就農者が定着するよう、TACの巡回による経営支援などのサポートを行っています。

質 問

販売戦略室はどのような業務を担っているのか、各地区本部の実態を把握しているのか伺いたい。また「1円でも高く」販売するための具体的な戦略を伺いたい。

回 答

地区本部における営業のサポートを目的として、また、米穀・畜産・園芸の部門を跨いだ総合的な営業力の強化を目的として設置した部署となります。なお、立ち上がりと同時に、各地区本部で行われている販売方法などを調査・整理しています。

質 問

役員定数が削減となった際には、役員報酬や人件費などの費用面にどのような影響があるか伺いたい。

回 答

相応の影響が想定されますが、最終的な定数が決まっていない中ですので具体的な試算はお示しできない状況です。

質 問

●経営管理委員会とはどのようなものなのか、また導入のメリットを伺いたい。

運営体制の改革を進めることによって、本店へ権限が集約し、その結果地区本部の自主性や独自性が阻害されることを危惧する。

●運営体制を改革するのであれば、総代の体制や総代会の在り方についても併せて検討してはどうか。

回 答

県1JAのうち4JAが経営管理委員会を設置している現状のなか、その仕組みがどういったものなのかを今後研究していくものだとご理解ください。現状の理事会制をベースに、当JAの地区本部制を踏まえて、JAしまねとしての運営の在り方を検討していきます。

この他にも幅広くご意見をいただきました。

／ チャレンジ ／ 「JA自己改革」



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標に、JA自らが進める改革のことをJA自己改革と言います。JAしまね農業戦略実践3カ年営農計画の取り組みはもとより、食農教育や社会貢献活動等を通じて、地域活性化と住みよい地域社会づくりをめざします。

「農業者の所得増大」・ 「農業生産の拡大」への取組

● 農業振興支援事業

規模拡大や生産基盤の強化をはかる担い手への支援、新規就農者の育成確保、担い手の健康対策、園芸重点推進5品目の産地化、しまね和牛の増頭、島根米のレベルアップと差別化強化として1.9mmふるい目更新といった県域での戦略的な展開、地区本部の取り組みなどの農業生産の維持・拡大対策など、農家所得向上に向けた取り組みを展開しています。また、自然災害復興対策も実施しています。

支援事業を活用された組合員の皆様からは、「行政からの支援が受けられず困っていたが、支援事業により規模拡大が進められた」、「玄米の選別ふるい目を1.9mmふるい目に変えたことで玄米品質が良くなり1等米比率が拡大した」、「繁殖用雌牛価格が高騰しているが、JAからの支援で増頭が進められている」、「災害を受けたパイプハウスの再建ができ、営農活動が続けられる」といった声をいただいています。

● 重点5品目の推進

園芸重点推進5品目についても、島根ブランドの定着化、所得向上に向け販売力を強化するための取り組みを行い、栽培拡大に繋がっています。

作物名	取組内容
キャベツ	加工業務用向け栽培推進、水田の排水対策試験
たまねぎ	集落営農法人への作付推進、オール機械化体系に向け試験実証
ミニトマト	アンジェレの作型拡大試験実証
白ねぎ	点滴灌水システム・新品種・マルチ栽培といった新技術実証
アスパラガス	1年生栽培・高畝疎植栽培といった新技術実証、リース団地の実施

今後も、農業者の所得増大、農業生産の拡大に向け取り組みを強化していきます。



JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介

JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

隠岐郡隠岐の島町 田中 修司さん



田中修司さん（30歳）は、隠岐郡隠岐の島町都万で、繁殖牛30頭を母親と2人で飼育しています。

幼少期から実家で牛を飼育しており、その影響を受け、畜産業に携わるため島根県立農林大学校へ進学しました。その後、出雲市佐田町の(有)ちくさん緑化、隠岐の島町の(株)だんだん牧場で畜産の仕事をしていましたが、実家の畜産業の経営規模の拡大のため、跡を継ぐ目的で平成28年に新規で就農しました。

平成28年にJAしまね農業振興支援事業「魅力ある産地づくり支援事業：しまね和牛増頭支援メニュー」を活用して繁殖牛4頭を導入。平成29年にも同メニューで繁殖用牛舎等の建設を行うなど、年々経営規模の拡大を図っています。

今後、経営規模をさらに拡大するために、施設の拡充だけでなく大型機械の導入も進め、経営基盤の安定を図り、少なくとも繁殖牛50～60頭規模にすることが目標です。

隠岐の島町は、牛突きなど伝統文化でも牛との関わりが多い土地柄です。そんな昔ながらの自然・文化の残る隠岐の島を、畜産業を通して守っていきたいと思っています。



理事会情報（5月30日開催）

協議事項

- ① 株式会社JAアグリ島根株式譲受に伴う販売事業強化に向けた検討について
- ② 農産物検査業務規程の一部改正について
- ③ 平成28年産島根米「買取制度」総括について
- ④ 平成29年産島根米「買取制度」中間総括について
- ⑤ 葬祭会館利用料の新設および葬祭会館利用管理規程の一部改正について
- ⑥ 監事監査規程の全部改正について
- ⑦ 組合と理事との取引（契約）の承認について
- ⑧ 島根県常例検査書の回答について
- ⑨ 株式会社JAアグリ島根への出資について
- ⑩ 平成29年度決算の承認について
- ⑪ 第4回通常総代会への附議議案について
- ⑫ 財務調整に関する取り扱いについて
- ⑬ 平成30年度に実施する業績還元を取り扱いについて
- ⑭ 購買システム整備の方針整理にかかるコンサル導入の検討結果について
- ⑮ 通常総代会にかかる「総代会参考書類」および「議決権行使書」の取り扱いについて
- ⑯ 常勤理事の他の団体理事等への就任について
- ⑰ 職員就業規則および関連規程の一部改正について
- ⑱ 運営体制改革にかかる改革案（中とりまとめ）の主要項目と総代会附議議案について

（紙幅の関係上、報告事項は省略いたします）

雲南

奥出雲町肉用子牛共進会が開催

6月7日に仁多郡奥出雲町の仁多中央家畜集合所で平成30年度第1回奥出雲町肉用子牛共進会が開催され、八川支部の福田一三さん出品牛「あき」が特選賞首席に輝きました。

首席の「あき」は、体上や体高の良さと全体的な締りの良さが評価の決め手となり、2席には横田支部の藤原トミ子さん出品牛「みつはな4」、3席には三沢支部の内田勇さん出品牛「しらゆり」が選ばれました。

首席に輝いた福田さんは「食事や運動を気にかけてが、一番は親の良いところを受け継いだこと。いい結果が残せてよかった」と話し、勝田康則町長は「宮城全共では県代表26頭の内、奥出雲町から11頭が出品された。この経験は次回の鹿児島全共につながるはず。町としても最大限の支援をしていきたい」と同町のさらなる和牛振興への期待を述べました。



特選賞に輝いた「あき」と福田さん（右）、勝田町長

くにびき

家庭婦人バレーボール大会で熱戦！ 津田クラブが2年ぶり5度目の栄冠に輝く

くにびき地区本部は6月3日、松江市総合体育館で「第12回JAしまね くにびきふるさとふれあいカップ家庭婦人バレーボール大会」を開きました。松江家庭婦人バレーボール連盟に所属する14チームが参戦し、津田クラブが優勝に輝きました。

大会は、スポーツを通じた社会貢献活動や管内チームの交流を目的として、毎年開催しています。

開会式では、田中鈴木副本部長が「練習の成果を発揮し、はつらつとしたプレーをしてください」と挨拶。雑賀クラブの川上直美さんが選手宣誓し、試合開始となりました。

試合は、予選から白熱した戦いが展開され、各チームは一進一退の攻防を繰り広げました。決勝では、昨年準優勝の津田クラブと、6年ぶりの優勝を狙う朝日クラブが激突。序盤から津田クラブが、21-14、21-9と圧倒し、2年ぶり5度目の栄冠を手に入れました。



優勝した津田クラブのメンバー

隠岐

隠岐地区本部総代・ 運営委員合同視察研修会の実施

隠岐地区本部は、6月24日に開催された第4回通常総代会に総代・運営委員合同で出席した翌日、引き続いて視察研修会を実施しました。

研修会では、株式会社JAアグリ島根や斐川地区本部のグリーンセンターなどを訪問しました。

株式会社JAアグリ島根では、同社の概要、米・花き・青果物・食肉などの販売実績の説明後、実際に花き市場などを見学しました。また、斐川地区本部管内のグリーンセンターでは、平成7年にオープンした産直市場を見学し、地元で生産された野菜・果物・花き・加工品などの多くの農産品が並べられている、活気のある販売現場を視察することが出来ました。



やすぎ

いもイモ大作戦 始動！

やすぎ地区本部は安来市穂日島町の中海干拓地で毎年行っている、サツマイモの苗植え体験イベント「いもイモ★大作戦」を今年も開催しました。食農教育と地産地消の推進を図ることを目的に平成11年から毎年行われ、リピーターの方も多いイベントです。

6月3日には市内外から40家族、約130人が参加され、JAの営農指導員の指導のもと、一区画10本の「紅はるか」の苗を定植しました。また、サツマイモについてより知ってもらおうと、栽培管理のほか品種の特徴や苗の説明など詳しく掲載したさつまいも栽培マニュアルをJAの担当者が手作りで作成し、配布しました。

参加された親子からは「去年より子供が植えるのが上手になっていました」「暑くて大変だったけど、楽しかったです」との声が聞かれ、今後は収穫まで各自で除草作業などの管理をし、10月に収穫祭や重さを競うコンテストも行う予定です。



苗に優しく土をかける子供

斐川

TACが行う食農実践教室

6月7日、斐川地区本部の担い手担当職員（通称：TAC）2名が、食農教育の一環として町内の出西保育園とあい川保育園を訪問し、49名の園児たちと枝豆「ゆかた娘」の種まきを行いました。はじめにTACが枝豆についての説明をした後、等間隔に印のついたロープを目印に指で穴をほり、一粒ずつ丁寧に種をまき、土をかけた後にたっぷり水をかけてあげました。園児たちは「穴の深さはこれくらいいいの?」「いつになったら食べられるの?」と質問しながら興味津々で作業に取り組んでいました。今後は園児たちが管理を行う予定で、毎日の水やりから土よせや草取りなどの作業を、当番を決めて行います。8月には収穫した枝豆を園で調理し、おやつとして味わうのを園児たちは楽しみにしています。



出西保育園の園児たち



あい川保育園の園児たち

隠岐 どうぜん

畜産共進会が開催

6月12日（火）隠岐島農業協同組合協議会が主催する「平成30年隠岐郡畜産共進会」が、知夫村仁夫里浜特設会場にて開催されました。

数日前より地元畜産農家の協力による会場準備を経て当日を迎えました。隠岐島各地区より1区（子牛の部）10頭・2区（若雌の部）15頭の計25頭が出品されました。審査の結果グランドチャンピオン牛には2区（若雌の部）首席のしげしげ号（高井芳江さん出品）が選ばれ、10月20日開催の島根県種畜共進会に出品されることになります。

また長年にわたり畜産振興に尽力された、知夫村の金築輝雄さん、山本進さんに畜産功労賞、小西梅子さんに全国和牛登録協会登録事業功労者賞（島根県で2名）が授与されました。昼食には地元畜産婦人部の方が豚汁をふるまい、審査競技には沢山の人が積極的に参加するなど活気あふれる畜産共進会となりました。



石見銀山

女子大学で石見銀山見学

JALしまね石見銀山地区本部が運営する女性大学（JA女子大学石見銀山キャンパス）の8期生は、6月6日に大田市大森町の町並みを散策、石見銀山について学びました。

JALしまね石見銀山女性部員でもある稗田奈穂美さんをガイドに、大森町の町並みを歩きました。大森町は、江戸時代の武家屋敷や代官所跡、石見銀山で栄えた豪商・熊谷家住宅など、随所に並ぶ歴史的な建造物や文化財が当時の面影を残しており、どこか懐かしい雰囲気になっています。

中国地方は5日より梅雨入りし、当日もあいにくの雨模様でしたが、受講生はガイドの話に熱心に耳を傾けながら、石見銀山の歴史について学びました。



ガイドから説明を受ける受講生

出雲

JAしまね子会社起工式 大型水耕栽培施設を建設

JALいずもアグリ開発(株)は6月20日、出雲市神西沖町で大型水耕栽培施設の起工式を行いました。光、温度、湿度、二酸化炭素、培養液などを調節できる高度環境制御栽培施設を建設し、天候の影響が少ない環境で、リーフレタスを周年栽培します。

総事業費は約7億400万円で、国の産地パワーアップ事業から1/2の助成を受けました。年間販売高は1億4,000万円を計画しています。JALしまね出雲地区本部の石川寿樹本部長は「子会社であるアグリ開発を主体とした大事業。自己改革の柱である農業生産拡大のためには、新しい農業にも取り組む必要がある」と話しました。

起工式には県、市、全農、施工業者、JA役職員ら約30人が出席。同地区本部の副本部長も務めるアグリ開発の吉田博幸代表取締役は「出雲の将来のために、誰かが先駆けてやらなければならない事業。次世代を担う若手や地元企業などに波及させたい」とあいさつしました。



あいさつをする吉田代表取締役

西いわみ

第56回島根米品評会農林水産大臣賞受賞 農事組合法人豊郷

第57回農林水産祭参加の島根県農業振興協会主催第56回島根米品評会で、益田市横田町の農事組合法人「豊郷（とよさと）」（代表理事組合長北條義洋）が出品したうるち玄米品種「きぬむすめ」が、島根米総合の部において農林水産大臣賞を受賞しました。

「きぬむすめ」は、平成29年5月に、約38ヘクタールの管理水田のうち50アールを乾田直播により播種し、10月上旬に収穫したもので、出荷先の米検査場で粒張りや色つやが極めて優れている事に注目したJA検査員が出品を勧めました。

同法人北條代表によると、乾田直播は平成28年の先進地視察がきっかけで、手がけていた大豆栽培の作業や機械が乾田直播に応用できると考えたということです。

平成30年6月8日に島根県庁で伝達式があり、北條代表に表彰状が贈られました。

北條代表は「今回の受賞を励みにして研究を重ね、面積を拡大して得られたデータを今後の取り組みに活かしていきたい」と抱負を述べました。



島根おおち

(株)スパーク山陰フェアー [2018初夏]

広島県の地域密着型スーパー(株)スパークにおいて、島根県の青果物と特産品を揃えた山陰フェアーが開催されました。当フェアーは6月7日（木）～6月10日（日）の4日間、(株)スパーク15店舗で開催され、島根おおち地区本部からも職員が店頭立ち、地元産サニーレタス等の野菜を並べ、PRや販売を行い店頭は賑わいました。

島根おおち地区本部と(株)スパークは、島根おおち野菜ブランド「愛菜の郷」の出荷をはじめ、毎年11月から12月には管内の加工場で製造している杵つき餅の職員による実演販売、また出荷している農畜産物への理解と関心を高めていただくため管内産地の視察を実施するなど、30年以上の交流を続けています。

島根おおち地区本部では、県内外の多くの方に管内の農畜産物を知り、食べていただけるよう、積極的な宣伝活動を行ってまいります。



本店

関西地区でトップセールス！

6月9日に、出荷最盛期を迎えた「デラウェア」や「アムスメロン」などを売り込むトップセールスを、取引量が多い関西地区にて島根県と協力して行いました。当日は竹下組合長が藤原孝行副知事らと、大阪市中央卸売市場の大阪中央青果を訪れ、デラウェアのキロ単価1,300円の達成に向け、売り場確保など販売促進を関係者に要請しています。

また、神戸市のショッピングセンターへ特設コーナーを設置し、県産のキャベツやトマト、シイタケなどとともに、島根の果実や野菜の鮮度、味の良さを買い物客にPRしました。特設コーナーでは、出雲農林高校の生徒さん達にもお手伝いいただき試食品を振る舞ったほか、農産加工品が当たる抽選会も行い、会場は大変賑わいました。



(島根県提供)

いわみ中央

収穫を楽しみに！ さつま芋苗植え体験

JAしまねいわみ中央地区本部は、6月17日に浜田市上府町であぐりkids倶楽部の農業体験を行い親子16人が参加しました。

今回は、さつま芋の苗（品種：紅あずま）200本を植えました。あぐりkids倶楽部は、1歳から小学校6年生までの子供を対象に、親子で農業体験をとおして「農」を知ってもらうことを目的に立ちあげ、7年が経過した現在は67家族が加入しています。

この日も、JAの職員から植え方の話を聞き、畑には畝がたてられマルチを張ったところに、穴をあけて1本1本親子で楽しみながら植えていきました。最後に水やりをして終了です。参加者は「秋には大きな芋ができるといいなあ!収穫が楽しみ」と体験の感想を話していました。植えた芋は10月に収穫予定です。



タテのカギ



- ①水着の痕がついたり皮がめくれたり
- ③学校の教室に並べます
- ⑥酒などを量る四角い容器
- ⑦ミノ、ハツ、センマイといえ
- ⑧全生徒中の男子生徒の——を計算で求めた
- ⑩お盆休みに帰る人もいます
- ⑭プールで習うことの一つ
- ⑯ビーチ——を広げて日陰をつくった
- ⑰一般的に縄より太め
- ⑱バットを持って1人でもできる練習
- ⑳釣りに使う透明な糸

ヨコのカギ



- ①夏らしい黄色い花
- ②爪を削って整えるときに使います
- ③アサガオやヘチマが伸ばす物
- ④天気予報では雲のマークで表されることが多い天候
- ⑤コンパスだときれいに描け
- ⑦サッカーの主審が吹きます
- ⑨舌で感じます
- ⑪ウミウシも実はこの仲間
- ⑫プラスの反対
- ⑬U A Eとも呼ばれる——首長国連邦
- ⑮卵を英語でいうと
- ⑯定期券を入れた——ケース
- ⑰あの2人はどうも——が合わないようだなあ

二重マスの文字を A ~ E の順に並べてできる言葉は何でしょうか？

1	6	8			16	19
2				13		
		9	10		17	
	7			14		
3			11			20
4				15	18	
5			12			

答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒685-0016 隠岐郡隠岐の島町城北町151
JAしまね 隠岐地区本部 「クイズ」係
平成30年8月5日（日）（当日消印有効）

◆先月号の答え◆ 「サヤインゲン」



・お預かりした個人情報、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはございません。

夏に向けてのからだ準備

今年も猛暑が予想され、体調管理に不安をお持ちではありませんか？今年こそスムーズに乗り越える為、早くから準備したいものです。

夏の暑さに負けない元気なからだを作るには、「バランスの良い食事」「適度な運動」「十分な睡眠」が大事とよく耳にします。簡単なポイントをあげますので、参考にしてみてください。

夏は、冷房にあたりたり、冷たい物の摂り過ぎで、案外からだ冷えてしまっている事が多いです。からだの冷えは、自律神経の乱れや、免疫力の低下に繋がるので、夏であっても温める事が大切です。食事のはじめに野菜たっぷりのスープや味噌汁をからだに入れたり、温かいお茶を飲んだりするだけでもずいぶん違います。食事も大切で、食べて消化する行為はエネルギーを作り出し、からだを温めます。特に体温の低い人は朝食を抜かないこと！3食の中で朝食は最も大きな熱を生み出します。体温を上げ代謝を良くする事で疲れにくくからだをつくりましょう。もし、夏に食欲不振を感じたら、胃腸の冷えが原因かもしれません。「温かい物」を摂るように心がけ、胃腸に負担をかけないようにしましょう。

食事の次は運動ですが、今まで運動習慣がないと「外は暑いし運動で汗を流すのは嫌だ」と躊躇する人も多いと思います。激しい運動ではなく、朝起きがけのウォーキングアップを行うことで、気持ち良く1日をスタートさせて、疲れにくくからだにする効果があります。

目覚めに寝たままの状態で、1.両手を胸の前まで上げ、グーとパーを繰り返す要領で手の平を開いたり閉じたりする。2.次に頭の上まで両手をあげ、両手足をゆっくり伸ばす。最初は軽く、徐々に手足に力をいれる。3.両手を両脇にもどします。踵を突き出す動きと、つま先を伸ばす動きを交互に数回繰り返す。4.膝を両手で胸の前で抱えるように引き寄せゴロゴロとする。このようにしてゆっくりエンジンをかけ、からだを温めながら目覚めさせてはいかがでしょうか。少しづつ取り入れてからだを動かすきっかけになればと思います。

そして睡眠。この季節にかかわらず、なかなか寝付けないといった方は多いと思います。入浴や温かい飲み物でからだを温めたり、アロマを焚いたり、照明を好みに変えたり、本や音楽で心を落ち着かせたりと、安眠方法については三者三様ですが、共通する点はリラクゼーションできる状況を作ることです。また、日中に明るい光をたくさん浴びることをお勧めします。明るい光は、睡眠を促進するホルモン（メラトニン）が作られ、より良い睡眠に近づくことができます。明るい光なら自然光だけでなく、どんなものでも影響があり、室内の照明も含まれます。

何かヒントになりましたでしょうか？さあ、暑い夏に向

営農技術情報

7月に入り水稻の害虫被害が散見されています。生育については、進度は概ね平年並で、順調に推移しています。今回は病虫害防除とこれからの栽培管理のポイントについてお知らせします。

隠岐地区においては、6月中旬にかけてイネミスズウムシ、イネドロオイムシ、6月下旬から7月上旬にかけてはイネクロカメムシの発生が多く見られています。イネクロカメムシの発生が多い年は、8月から収穫期にかけての被害を大きくするため、ほ場の発生状況に注意して下さい。

また、本年の一斉防除は、主にいもち病と斑点米カメムシ対策として、昨年と同様「ブラシバリダジョーカー粉剤DL」（WCS使用不可）の出穂前散布をお願いします。斑点米カメムシのみの対策には、「スタークル粒剤」や、1人で手散布・ひしゃく散布が可能な「スタークル豆つぶ」も有効です。ただし、病気が出れば別途防除する必要があります。また、一斉防除後もほ場に斑点米カメムシが見られるようであれば、2回目、3回目の防除が必要となります。

また、近年等級を下げる原因となっている乳白（心白）粒は、登熟期の夜温が高いと多くなる傾向があります。過繁茂にしないことが重要ですが、水の便が良いほ場では、夕方に水の入れ替えを行うなど、地温を下げる対策も効果的です。

なお、収穫前落水時期を早めすぎると、胴割粒等発生など米の品質に影響します。極端な早期落水はしないよう心がけて下さい。

営農情報

西郷家畜市場開設



7月3日、岬町の旧空港跡地に新設された「隠岐の島町畜産センター」での初めてとなる家畜市場が開設されました。

Aしまね高木賢一代理事専務が挨拶し、続いて隠岐の島町の池田高世偉町長様よりご祝辞を賜り、関係者の挨拶、説明の後にセリが始まりました。

今回は子牛102頭、成牛3頭が上場されました。新市場での初めての取引で、今回は入念に準備をし、県・町・関係機関・JA職員合わせて約30名体制で取り組み又、畜産農家の皆様にもセリ前の牛の移動に積極的にご協力頂き、スムーズに終えることが出来ました。

今回の子牛市況は、前回より19、

隠岐市場市況（子牛）

（単位：税込、円）

性	入場頭数	取引頭数	1頭当価格			平均	1kg当単価	平均	前回比	前回
			最高	最低	平均					
♀	44	41	748,440	379,080	599,690	216	2,774	228	9,299	590,391
♂									0	
去	58	57	843,480	435,240	665,185	235	2,829	231	33,701	631,484
計	102	98	843,480	379,080	637,784	227	2,807	230	21,461	616,323
再	3	3	672,840	488,160	581,400	256	2,271	255	0	667,400
計	105	101	843,480	379,080	636,109	228	2,789	230	19,294	616,815

294円高の税込平均単価636、109円での取引となりました。今後も、この新たな施設を活用し、畜産農家、JA、関係機関が一体となり技術研修などを通して隠岐の島町繁殖牛増頭計画に基づき優良牛育成に取り組んで参ります。

（報告／経済課）

五箇小学校で田植えの授業

6月8日、隠岐の島町郡地区のほ場で、五箇小学校の5・6年生を対象に田植えの体験授業が実施されました。

当日は天候にも恵まれ、はじめに中西校長先生の指導のもと、ばばひきを使うところから始め、次にJAの職員から、今回田植えをするもち米品種の特性や田植えの方法、注意点などの指導を受け、担任の教員、農家の方とともに30数名が水田に入り、田植えの体験をしました。

概ね8aの水田でしたが、皆泥んこになって一生懸命植えたのであつという間に終わりました。

このあと、順調に育てば藻塩の散布も予定されており、出来たお米はどんと祭りなどでも販売することです。昨年もあると販売されていましたが、あつという間に完売だったそうです。



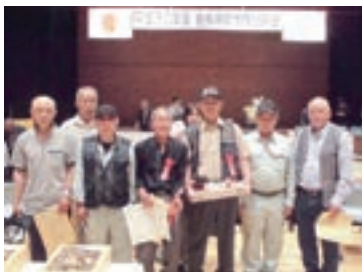
(報告／経済課)

椎茸部会が島外視察を実施

6月7日～8日にかけて、隠岐農産物生産者協議会椎茸部会は島外視察研修会を実施しました。

この研修会は椎茸生産技術の向上のため、隠岐島外の椎茸のホダ場を見学し、また平成30年度島根県乾椎茸品評会授与式に出席することを目的に実施し、椎茸部会員、JA職員8名が参加いたしました。

ほだ場見学では、近隣より立木購入または自家原木栽培をされたほだ木が1,000本あり、駒菌は240号を主に使用されている椎茸ほだ場を見学しました。このほだ場では、ビニール被覆のより省力的な方式と、菌興式簡易散水を用いているところが特徴的であり、見学した生産者からも「このような方式を今後取り入れてみたい」という前向きな意見が聞かれました。



椎茸品評会では、前田美登さんが優秀賞・日椎連会長賞を、芳野正彦さんが優良賞・島根県椎茸生産者組合協議会長賞をそれぞれ受賞されました。また、日本きのこセンターの職員より昨年の秋子と今年の春子の生産量の概況等について聞くことが出来、近年椎茸販売を取り巻く環境は特に価格面において厳しいものがあるとのことでした。

(報告／経済課)

野菜部会は島外視察研修会を実施

6月20日より2日間をかけ、隠岐農産物生産者協議会野菜部会は島外視察研修会を実施し、野菜部会員・JA・県など9名が参加しました。

最初に訪れたのは、斐川町でハウス栽培の青ネギと産直用の少量多品目栽培経営を中心に取り組んでいる生産農家を視察し、ここでは、キャベツ全自動定植機や畝またぎ運搬機を導入しており、機械化体型の園芸品目を取り入れたモデル的法人経営を行っていました。

機械化は農作業の省力化を行っていく上で非常に重要なことだと感じ、今後高齢化や人手不足に対しての対策として、機械化のさらなる導入が必要なのではないかと考えさせられました。また、参加者からは視察先の作業小屋が、整理整頓が行き届いていることに深く感銘を受け、栽培技術の習得が今回の目的ではありませんが、整理整頓のような当たり前の基本的な行動なり、日々の習慣の積み重ねが大事なのだと改めて感じたところです。

次の視察先は雲南市で産直市に出荷している生産者を訪問し、産直市での売れ行きは口コミによるところが多いため付加価値やブランド化といったことを意識している話を聞くことが出来ました。

その後、JA営農経済本店を訪れ、農薬の適正使用や産直市での売れ筋商品の作り方、また、園芸栽培での主な病害虫の対処法についての講義を受けました。

2日目には、JAしまね斐川グリーンセンターの産直市場を視察し、農産物の産直品を取り扱う現場を研修しました。



今回の島外視察によって、病害虫対策などの栽培にかかわる知識の向上や産直市場に対する認識の増進が深まったのではと考えます。

(報告／経済課)

退任総代功労者表彰



J Aしまねでは、先般開催しました第4回通常総代会において、組合員の代表として長期にわたりJ Aの発展に貢献のあった退任総代に対し、感謝と功績を称えることを目的に功労者表彰を行いました。総代会当日には、退任をされた総代を代表して、隠岐地区本部からは、岬町の佐々木菊雄様にご出席をいただき、受賞いただきました。

なお、隠岐地区本部で受賞された方は、以下のとおりです。

- 岬町地区 佐々木 菊雄
- 大久地区 大江 一美
- 加茂地区 大田 豊明
- 久見地区 八幡 幸春

(報告／企画総務課)

隠岐地区本部総代説明会を開催



6月10(日)隠岐島文化会館において隠岐地区本部管内の総代、地区本部運営委員および支店運営委員を対象とした総代説明会を開催し、63名の方にご出席いただきました。

当説明会は6月24日に開催された第4回通常総代会に向けた地区別の説明会として開催し、説明会の冒頭では竹下組合長、佐々木本部長より挨拶をさせていただきました。説明会では、現在J Aしまねが取り組んでいる「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けた自己改革について、これまで実行してきた取り組みのご報告と、今後の方針等についてご説明をさせていただきました。また、平成29年度の事業実績と第4回通常総代会の議案の内容についてもご説明をさせていただきました。

(報告／企画総務課)

「美容と食の健康料理教室」の開催



6月9日(土)J A女子大学隠岐キャンパスは美容と食の健康をテーマに、2回目の講座となる「美容と食の健康料理教室」を開催しました。当講座は、家庭で出来る美容と健康に繋がる料理を学び、健康な毎日を過ごすことでよりエネルギーシユな暮らしを持つことを目的として開催し、当大学の生徒およびJ A事務局等15名が参加しました。

料理教室では、(株)H A L M スイより講師を迎え、代謝に関わりが深く細胞の生産や再生を助け、体の発育を促すとされているビタミンB群の一種である「葉酸」を多く含んだ食材を使い、また多くの食材を地元で採れたものを使用しました。献立は、「冷しゃぶトマトつけ麺」「鶏肉のから揚げチリソース」「かぼちゃの甘煮」「三色玄米「爆弾おにぎり」」でしたが、普段から主婦をされている人が多く参加していたこともあり、協力しながらテキパキと料理が出来上がりました。出来上がった料理は大変おいしく、体に良い食材で作られたと思

うと余計においしく感じられました。講座では、エステティシヤンの資格を持つJ A職員を講師として「その場ですぐ出来る健康指圧講座」も実施し、女子大ということもあり興味津々で講師の指導のもと実際に生徒自身でツボを指圧したり、ストレッチをして体の外からも健康について学びました。

今後も概ね2か月ごとに各種講座を開催する予定としており、一般の方も聴講制度にて参加可能となっておりますので、詳しくは企画総務課までお問い合わせ下さい。



(報告／企画総務課)

平成30年度隠岐郡畜産共進会

6月12日（火）、島前地区知夫村の仁夫里浜公園特設会場において平成30年度隠岐郡畜産共進会が開催されました。

共進会には隠岐地区本部管内から、第1区子牛の部（5ヵ月齢以上～12ヵ月齢未満）には生産者4名より5頭、第2区若雌の部（12ヵ月齢以上～22ヵ月齢未満）には生産者3名より3頭の出品がされました。

主な結果は次のとおりです。

出品区分	出品牛名	出品者名	受賞された賞
1区	はなひかり6号	だんだん牧場	特選 首席
2区	しげしげ号	高井 芳江	グランドチャンピオン

なお、今回グランドチャンピオンになった「しげしげ号」については、本年10月20日に松江市島根中央家畜市場で開催される、島根県の種畜共進会へ出品される予定となっています。



（報告）／企画総務課

「年金友の会」都万支部・中村支部合同で活動を実施



6月3日天候にも恵まれ「防災・文化を学ぶ（楽・楽）旅」と題し、都万支部・中村支部合同で年金友の会の合同会を開催しました。

最初に、隠岐島消防署へ施設見学と防災についての講話を聞きまし
た。消防の歴史から署員の人数などのお話や火災報知機の重要性、また島民は常に顔の見える関係であることから救急の件数が少ないなど貴重なお話を聞くことができました。また、施設見学で救急車や消防車の説明、訓練の一部を見ることで会員から歓声が出ていました。

続いて、釜地区の佐々木家において家の造りや歴史についていろいろと説明を受け、その後会員相互の親睦を図り交流を楽しみました。



（報告）／都万支店

お便りコーナー

読者の皆様のご意見・ご感想をご紹介します

・今年除草剤がピシャツと効き気持ちがいいです。
（上西・Fさん）

・子供たちの田植え農作業等授業体験は楽しい思い出になることと思います。
（上西・Hさん）

・あじさいの花がきれいに咲き始めました。雨が少ないようですが、畑の野菜がりっぱに育ちますように。
（原田・Sさん）

・「健康散歩」記事をはじめて全部読みました。小さな冊子ですので、身近において少しずつ読んでいます。
（岬町・Mさん）

・クロスワードパズル毎月楽しみにしています。
（中村・Iさん）

・玉若酔神社前の田んぼを車で通る時、横目でチラリと見ています。秋には収穫祭が楽しみです。がんばれ、隠岐の子供たち！
（卯敷・Hさん）



「お便り募集中」
本誌「クロスワードパズル」コーナーの応募要項をご覧ください。
本誌「JAしまねびより」またJAに対するご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

タマネギ

のまきどきと 上手な苗作り

板木技術士事務所 ● 板木利隆

タマネギはあまり早くまき過ぎると冬に入る前に大きく育ち過ぎ、低温に感応してとう立ちする 경우가多く、失敗しがちです。適正なまきどきは早生種9月上旬、中生種9月15日前後、晩生種9月20日ごろです。

タマネギは土壌の酸性に弱い(最適pHは6.3~7.8)ので、苗床の予定地は早めに石灰を施し、20cmぐらいの深さによく耕しておきます。

苗床は幅80~100cm、高さ15~20cm(低温地では幅を狭く、高さを高くする)とし、あらかじめ化成肥料を全面にまき、深さ15cmぐらいに耕し込んでおきます。

種まきは床面をきれいにしたら、3.3平方メートル当たり40ml内外の種を均一にばらまきます。その上に草木灰を種が見えなくなる程度に掛け、さらにそれが見えなくなる程度にふるいで土を均一に掛け、板切れなどで軽く押し付け、鎮圧します。その後細かく砕いた完熟堆肥、またはもみ殻で土が見えなくなるぐらいに覆います。そしてたっぷり灌水(かんすい)し、稲わらで全面を覆い、強い降雨や、強日光による乾燥を防ぎます。

通常6~7日で発芽しますから、全体に発芽し1~2cmに伸びたら、被覆していた稲わらは取り除きます。乾いていたなら全面にたっぷりジョウロで灌水し、そ

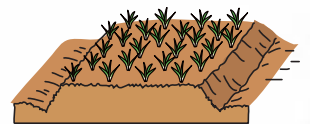
ろった発芽を促します。

草丈が3~4cmに伸びた頃、密に生えたら間引き、1.5cmぐらいの間隔にします。間引きの後、少量の化成肥料を追肥し、ふるいで土を掛けて土入れします。

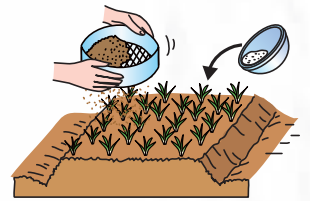
苗が7~8cmの丈になった頃、前と同様に第2回の追肥をします。

この頃は秋雨が降り続くことが多く、葉の一部がぼんやりと黄化するべと病が発生しやすいです。この苗床で発生を許すと春先になって本畑で多発しやすいので、早いうちに適応薬剤を、展着剤を加えて散布し、完全に防除しておきます。

11月上~中旬になり苗の大きさが草丈20cm内外、太さが5~6mmぐらいになったら畑に定植します。苗取りは、床が乾いていたなら十分灌水し、根をできるだけ切らないよう、大きい株からできるだけそろえて引き抜きます。こうすれば本畑での早い活着は請け合いです。



草丈3~4cmの頃、混んでいる所を間引く

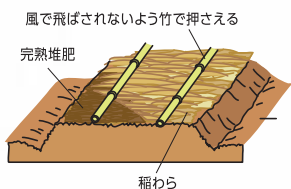


間引き後、化成肥料を少々ばらまき、ふるいで土入れする



種まき。種が見えなくなるくらい覆土する

ふるいで均一に振り掛ける



風で飛ばされないよう竹で押さえる

完熟堆肥

稲わら

ハチを見かけたら巣づくり警報!

無料調査

ハチ
駆除

近寄らず、触らず!!
ハチの駆除はプロにお任せください。

ハチの駆除をご希望の方は
最寄りのJAまでご連絡ください。
JAしまね取扱業者(株)コダマサイエンスの
地区担当者が訪問させていただきます。



お問い合わせ先
最寄りのJA各支店・支所
にお問い合わせください

取扱業者 (公社)日本しるあり対策協会企業登録(島根県002・鳥取県002)
Kodama 株式会社 コダマサイエンス
■本社 / 島根県松江市西塚島2-8-23 ☎0852-43-0852
■松江営業所 / ☎0852-26-6757 ■江津営業所 / ☎0855-52-6852
■益田営業所 / ☎0856-22-5390 ■隠岐営業所 / ☎08512-2-2471

JA 共済から

新登場!!

新しい保障に関するお知らせです!!

もしものアクシデントで

働けなくなったらどうしよう…。

働けなくなったときの生活に不安があるアナタ!!

JA共済から働けなくなった方のための保障が新たに登場しました!!



JA共済の資料請求はこちら!

あなたにぴったりの共済をみつけよう!!
お気軽にご利用ください。

こちらからアクセス▼

はじめて共済

検索

<http://shiryo.ja-kyosai.or.jp>



組合員からの情報提供窓口について

当組合の監事は、経営の健全な発展に資するため、農協法（法第35条の5）および農協法施行規則（第81条）に基づき、理事の職務の適正な遂行を阻害する行為に関する情報（組合経営に関する事象に限る）の提供を受付けています。

当組合理事の組合経営に関する気になる行為について、封書またはEメールにて右記宛に連絡くださいますようお願いいたします。

島根県農業協同組合 監事会

連絡先：住 所 〒690-0887 松江市殿町19番地 1

Eメールアドレス kanji.hon@ja-shimane.gr.jp

部 署 名 監査部

受 付 監 事 常勤監事

※当組合の業務に関する一般的な苦情については、担当部署または支店で受付けていますのでご利用ください。

※ご好意による情報提供であっても、誹謗・中傷に類似する内容のものは受付いたしかねますので、予めご了承ください。

鮎ごはん



焼き鮎、みょうが、青しそ、ごまの組み合わせでさわやかな炊込みご飯です。鮎の香りが口の中に広がります。

●材料 (4人分)

鮎……………2尾	みょうが……………2個
塩……………小さじ1/2	甘酢
干しいたけ……………3枚	酢……………大さじ2
生姜……………1かけ	砂糖……………小さじ1/2
米……………2カップ	塩……………小さじ1/5
水……………	白ごま……………小さじ1
しいたけの汁……………60cc	青しそ……………5枚
酒……………大さじ2	
しょうゆ……………大さじ1と1/2	

●作り方

- ①みょうがは縦半分に切り、さっと湯に通し甘酢につける。
- ②しいたけは水で戻す。
- ③鮎は肛門から糞を出し水洗いして水を拭き塩をふり焼く。
- ④米は洗い、しいたけの戻し汁を入れ30分置く。
- ⑤しいたけ、生姜は千切りにする。
- ⑥炊飯器に米、酒、しょうゆ、しいたけの戻し汁を入れ炊飯器の水メモリ2の所まで水を入れ、しいたけ、生姜、鮎を入れ炊く。
- ⑦炊けたら鮎ごとざっくりと混ぜ、茶碗に盛り青しそとみょうがの千切りを乗せごまをふる。

(苦いのが苦手な人は混ぜる時、鮎の頭は捨ててください。)

あっさりゴーヤチャンプル



肉、卵を入れない夏に合うあっさり味です。市販のゴーヤチャンプルの素がなくても、かつお節としょうゆのみで簡単味付けです。かつお節を沢山入れるのがポイントです。

●材料 (4人分)

ゴーヤ……………1本	ごま油……………大さじ1
ツナ缶……………1/2缶	しょうゆ……………小さじ1弱
木綿豆腐……………1/3丁	かつお節……………20g
にら……………1/2束	(手づかみ2はい)
もやし……………1/2袋	

●作り方

- ①ゴーヤを縦半分に切って種とワタをとり、1cmに切り塩もみし、水洗いする。
- ②にらは5cmに切る。
- ③豆腐はザルの上ののせ20分おく。
- ④フライパンにごま油を入れゴーヤ、にら、もやし、ツナ缶の順に炒める。次に豆腐を加えずしながら炒める。
- ⑤しょうゆを入れる。
- ⑥かつお節を入れ混ぜずぐ火を消す。

表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通 (ののむらなおみち) 先生に描いていただいています。

今月の表紙は、大社町稲佐の浜にある弁天島です。出雲大社の西方1kmにあり、「日本の渚・100選」にも選ばれているこの海岸は、旧暦10月に行われる神迎神事(かみむかえしんじ)の舞台でもあります。弁天島には、豊玉毘古命(とよたまひこのみこと)が祀られています。稲佐の浜は西向きのため、夕暮れ時には美しい夕日を眺めることができます。

編集後記

稲佐の浜は、子どもの頃よく海水浴に訪れていた思い出の場所です。当時の記憶では弁天島は海に浮かんでいたのですが、砂の堆積などにより、今では島の後ろまで歩いていけるようです。月日の経過とともに風景は刻々と変化しています。今しか見ることができない景色を、できるだけたくさん見ておきたいですね。(和)

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

